

グローバル・スタディーズを促進するための科研費申請助成制度 募集要項

2020年9月8日作成

2020年12月23日改訂

グローバル・スタディーズ・イニシアティブ事務局

1. 目的・趣旨

本制度の目的は、東京大学大学院総合文化研究科におけるグローバル・スタディーズ関連の研究の促進である。本制度はこの目的に基づき、2021年度科研費特別推進研究、基盤研究 S、基盤研究 A、学術変革領域研究のいずれかに2020年秋以降に申請し、2021年4月以降の科研費採否の通知にて不採択となった研究代表者に対し、2022年度の科研費申請（2021年秋以降に応募）に向けての助走資金を支援し、応募課題の発展もしくは新たな研究課題の策定を促進するものである。

2. 対象

本制度は、次の(1)～(3)の条件を全て満たす科研費申請を対象とする。

- (1) 東京大学大学院総合文化研究科に所属する教授、准教授、専任講師、特任教授、特任准教授、特任講師を研究代表者としたものであること。
- (2) 2021年度科研費特別推進研究、基盤研究 S、基盤研究 A、学術変革領域研究へ申請（2020年秋以降応募）、2021年4月以降の科研費採否の通知にて不採択となったこと。
- (3) 同一の代表者が2022年度科研費特別推進研究、基盤研究 S、基盤研究 A、学術変革領域研究へ再び申請（2021年度に応募）する予定であること。

3. 支援内容・金額

本制度では、特別推進研究、基盤研究 S、学術変革領域研究への申請課題については100万円、基盤研究 A への申請課題については50万円を研究費として研究代表者に交付することを基本とする。ただし、申請件数、予算、採択・審査結果により、100万円の範囲内で増減する場合がある。研究費としての用途は、適正なものである限り自由とする。

交付件数：最大4件（上限総額200万円）を予定

研究期間：2021年4月以降～2022年3月31日

（ただし特別推進研究、基盤研究 S および学術変革領域研究の場合、科研費審査結果の開示時期を考慮し、2022年度も使用できるよう措置をとる可能性がある。）

4. 本制度への申請方法、必要書類、採否通知方法、助成金の交付時期

- (1) 2021年度科研費申請後に、本制度への申請を行う。締切は2021年3月15日（月）とする。

- (2) 本制度への申請は、①科研費研究計画調書*1、および②以下 a)~g)の事項を記した同意書*2 のスキャンデータ (PDF ファイル) を、グローバル・スタディーズ・イニシアティブ (GSI) 事務局 (contact@gsi.c.u-tokyo.ac.jp) へメール提出するものとする。なお、申請書の受領後、GSI 事務局から確認メールを送信予定。申請書提出後、数日経っても事務局から連絡がない場合は、事務局まで問い合わせ確認のこと。

*1 科研費研究計画書は GSI 事務局の責任において厳重に保管し、(3)に記す選考資料としての取扱いにおいても守秘義務を遵守する。

*2 同意書の様式は別途添付する。

- a) 下記「5. 申請要件」を承諾すること。
- b) 上記 a)に関して、簡潔な研究計画書を提出すること。
- c) 本制度による助成金受領者は、2021 年度に、2022 年度科研費特別推進研究、基盤研究 S、基盤研究 A あるいは学術変革領域研究へ再申請すること。再申請しない場合は、GSI 事務局の要請に基づいて当該助成金を返還すること。
- d) 上記 c)の際、再度研究計画書を提出すること。
- e) 本制度への申請後 2021 年度科研費または 2022 年度科研費に採択された場合、各種文書やホームページにおいて GSI の外部資金獲得および財源多様化の実績として挙示する旨を承諾すること。
- f) グローバル地域研究機構各センターのメンバー以外の研究代表者は、「グローバル地域研究機構フェロー」に就任すること。
- g) 採択された科研費申請課題の遂行において、研究計画書の記載事項を大幅に変更する必要がある場合、あるいは記載事項の継続が困難となった場合、速やかに GSI 事務局と協議すること。

- (3) 本制度への申請に対する採否は、2021 年 4 月末日 (学術変革領域研究の場合は審査結果開示の 1 ヶ月後) までに申請者にメールにて通知する。

※申請者は、科研費採否の通知および審査結果の開示がなされ次第、速やかに GSI 事務局に申告のこと。

※予算総額を超える申請があった場合には、GSI 事務局にて以下の基準に照らして選考を行う。

- ① 「5. 申請要件」を踏まえた GSI 事業への貢献度
- ② 開示された科研費審査結果

- (4) 助成金は、2021 年 9 月に申請者所属専攻予算への移算にて交付予定。

※上記以前に必要な場合は、別途 GSI 事務局に相談のこと。

5. 申請要件

科研費申請が採択された場合、その研究課題の遂行において、下記の(1)、(2)のいずれかを行うこと。

- (1) グローバル地域研究機構 (IAGS) または IAGS 傘下の研究センターと連携して研究を遂行する^{*3}。
- (2) GSI キャラバン^{*4}を代表者または分担者として実施^{*5}する。

^{*3} IAGS 傘下の各センターの概要については GSI のホームページなどを参照のこと。
IAGS や各センターとの連携の具体例としては、IAGS やセンターと共同で科研費研究計画を作成する、IAGS やセンターが推進する研究プロジェクトに貢献する形で科研費研究計画を位置づける、IAGS やセンターと緊密に連携しながら科研費の研究を推進するために必要な人材を雇用する、などが考えられる。

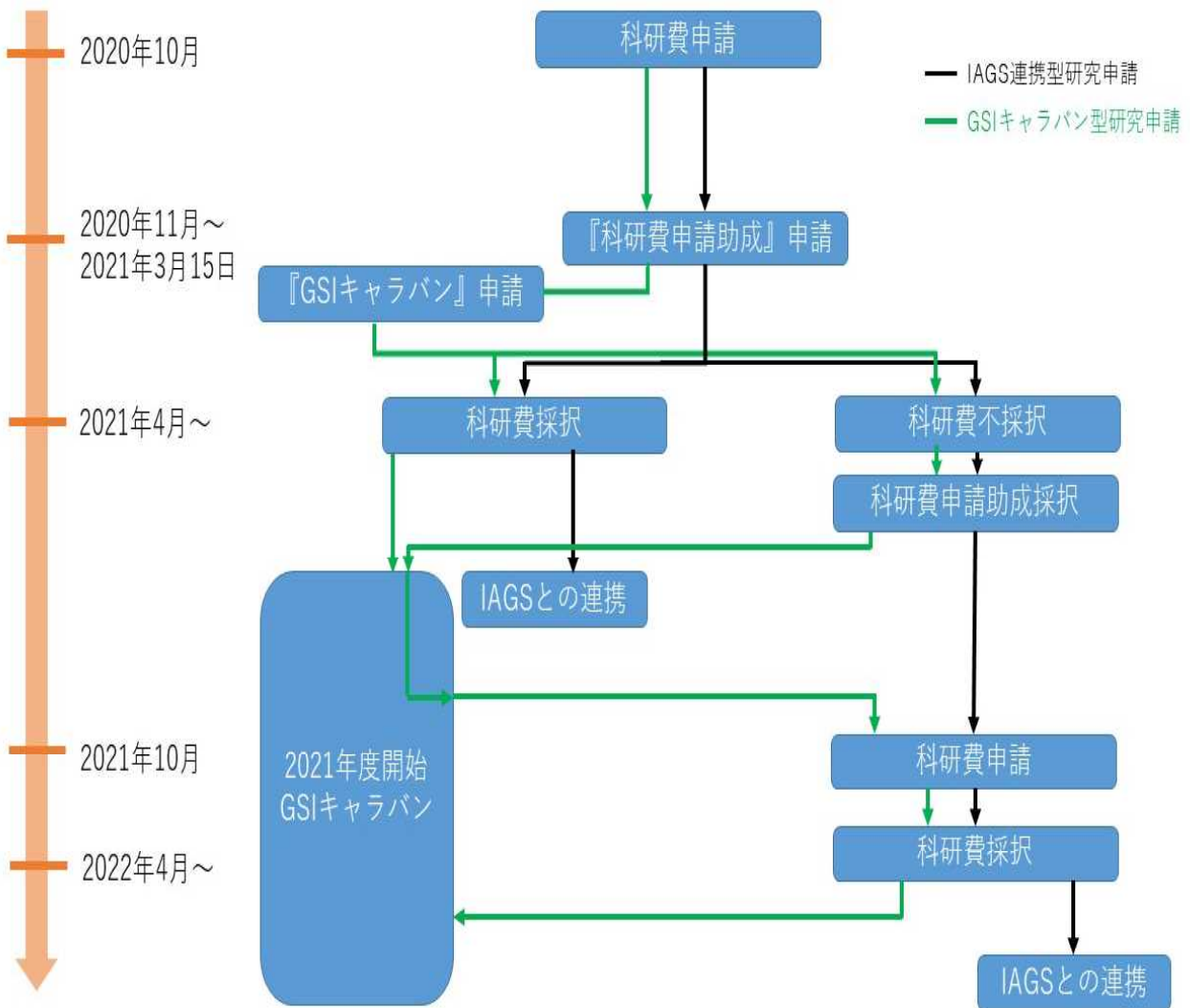
^{*4} GSI キャラバンの概要については、GSI のホームページを参照のこと。

^{*5} 既に開始しているキャラバン・プロジェクトの代表者または分担者も、この要件において本助成制度に応募可能。

【問い合わせ先】

グローバル・スタディーズ・イニシアティヴ事務局
駒場キャンパス 14 号館 2 階 205 号室
連絡先：contact@gsi.c.u-tokyo.ac.jp
HP：https://www.gsi.c.u-tokyo.ac.jp/

科研費申請助成フローチャート



GSI(グローバル・スタディーズ・イニシアティブ)キャラバン プロジェクト 募集要項

2020年9月8日

グローバル・スタディーズ・イニシアティブ事務局

1. 目的

東京大学における先端的かつ革新的な研究であるにもかかわらず、海外への発信が遅れている人文・社会科学分野の研究の推進を目的とする。その特徴は、「GSI 海外学術キャラバン」→「GSI 国際学術会議」→「英語書籍 GSI シリーズ刊行」という3年周期の国際共同研究活動のサイクル（略称「GSI キャラバン」）を通じて、グローバル・スタディーズ関連の研究成果を世界に発信しようとする点である。さらに、「GSI 海外学術キャラバン隊」は、研究ネットワークの拡充のみならず、本学のグローバル教育*¹を該当地域へと展開する礎を築く役割も担う。

*¹国際研修等の「本学のグローバル教育」については、GSI のホームページの「学び」を参照。とくに、既存の本学の協定校や戦略的パートナーシップ校を補完し、研究・教育プログラムを新たな地域や機関へと展開する可能性のあるプロジェクトを歓迎する。グローバル教育に関しては、採択後に研究チームの中の総合文化研究科・教養学部所属の研究者を中心に、グローバル教育の拡充のための活動方針についてGSIと検討する。

2. 活動内容・趣旨

国際共同研究活動「GSI キャラバン」の実施。典型的なパターンとしては以下を想定している。

1年目：「GSI 海外学術キャラバン」

研究代表者を中心に「キャラバン隊」を編成し、二週間程度で海外の4、5大学（たとえば東南アジアの4、5大学、中東の4、5大学など）をめぐり、セミナー開催や意見交換を実施。研究テーマの深化を図るとともに、研究者ネットワークを構築し、翌年の国際学術会議の礎を築く。また、現地の大学の国際交流担当者等と学生交流や学術協定締結の可能性について情報交換をし、本学との間で持続的な関係を構築・発展させるための活動を実施する。

2年目：「GSI 国際学術会議」

GSI 海外学術キャラバンを通して培ったパートナーを含む世界各地の拠点校から研究者を東京大学に招聘し、国際学術会議を開催。

3年目：「英語書籍 GSI シリーズ刊行」

GSI 海外学術キャラバンおよびGSI 国際学術会議の成果を「GSI シリーズ」から英文書籍として出版。

年次進行のペースや順序は各プロジェクトの必要に応じて柔軟に計画して構わない。またニューノーマルを踏まえ、キャラバンや国際学術会議については、オンラインで行うこ

とでもよい。ただし、時期・形式に関わらず、「GSI 海外学術キャラバン」「GSI 国際学術会議」「GSI シリーズ」の3要素はいずれも実施すること。プロジェクトの実施期間は3年を基本とするが、最長5年の間で柔軟に計画して構わない。



3. 対象

次の(1)～(6)の条件を全て満たす申請を対象とする。

- (1) グローバル・スタディーズに関連した研究プロジェクトであること。
- (2) 海外の大学等との共同研究と教育交流を発展させるプロジェクトであること。
- (3) 東京大学に所属する教授、准教授、専任講師、特任教授、特任准教授、特任講師を研究代表者とするものであること。
- (4) 本学大学院総合文化研究科に所属する教授、准教授、専任講師、特任教授、特任准教授、特任講師を研究メンバーおよび海外学術キャラバン隊に含むものであること。
- (5) 研究メンバーは、東京大学に所属する研究者および大学院生（博士後期課程）が半数以上を占めることが望ましい。
- (6) 採択後に GSI 国際卓越大学院の学生を「海外学術キャラバン」また「国際学術会議」等の参加者として受け入れてもらうことがある（GSI 国際卓越大学院の学生の活動経費については別途支給する）。

4. 支援内容・金額

一件上限 800 万円（総計）。ただし、申請件数、予算、採択・審査結果により、増減

する場合がある。

研究費の使途は、国際共同研究活動「GSI キャラバン」の実施に必要なものに限る。

交付件数 最大4件（2021年度新規採用案件の上限総額320万円程度）を予定。

なお、GSI キャラバン助成金を旅費として使用する場合、本学研究者・学生の海外派遣または海外大学の研究者・学生の招聘を対象とする。日本国内の他大学の研究者・学生を海外に派遣するための旅費としては、他財源を活用することを基本とするが、研究遂行の都合上必要な場合にはGSIに前もって相談し承認を得ること。

5. 募集期間

2020年9月15日～2021年3月15日

（科研費申請助成と連携申請の場合は科研費申請助成への応募後にキャラバン申請のこと。活動内容について、GSI事務局に事前相談することを歓迎する。）

6. 申請方法

必要書類（下記①申請書および②同意書）のスクランデータ（PDFファイル）をEメールにてGSI事務局へ提出すること。期日までに必着のこと。なお申請書の受領後、GSI事務局から確認メールを送信予定。申請書提出後、数日経っても事務局から連絡がない場合は、事務局まで問い合わせのこと。

- ① GSI キャラバン 研究プロジェクト申請書（別紙1：4枚綴）
必要事項を入力、印刷の上、研究代表者による自署・押印のこと。
- ② 以下a)～c)の事項を記した同意書（別紙2）※代表者のみ
 - a) 「GSI 海外学術キャラバン」「GSI 国際学術会議」「英語書籍 GSI シリーズ刊行」の実施・準備状況について、毎年度末に研究報告書（A4用紙1枚程度）ならびに会計報告書（所定様式）を提出すること。
 - b) 「GSI 海外学術キャラバン」また「GSI 国際学術会議」等の活動にあたっては、必要に応じて、GSI 国際卓越大学院の学生を参加者として受け入れること。
 - c) グローバル地域研究機構各センターの構成員以外でこの助成を受けた研究代表者は「グローバル地域研究機構フェロー」に就任すること。

7. 結果の通知時期

厳正なる審査の上、2021年4月下旬をめどに、申請書上の代表者電子メールアドレスに通知予定。

以上

【問い合わせ先】

グローバル・スタディーズ・イニシアティヴ事務局
駒場キャンパス14号館2階205号室
連絡先：contact@gsi.c.u-tokyo.ac.jp
HP：https://www.gsi.c.u-tokyo.ac.jp/